

雷の子

カトリック町田教会
町田市中町3-2-1
電話 042-722-4504
FAX 042-722-4512

いかずちの子

<http://www.machida-catholic.jp/>



羊飼いたちが語ったことを聞いた人々はみな不思議に思った。しかし、マリアはこれらのことをことごとく心に留め、思い巡らした。羊飼いたちは、見聞きしたことが、ことごとく告げられたとおりだったので、神をほめたたえ、讚美しながら帰っていった。
ルカ 2.18-19

ドングリ

主任司祭 小池 亮太

秋も深まり、木々が葉を落とす頃になると、ブナ科の仲間には木の下にたくさんどんぐりを落とします。東京と福岡の大神学院が統合されたことで司祭養成のプログラムが変わりましたが、私が東京カトリック神学院に入学した時、初年度養成は栃木県的那須と福島県の白河の中間にあるガリラヤの家 という小さな家で行われていました。人

里離れた山の窪地に建っているその家は、夜になると全く音が無く、耳が痛くなるほどの静けさが辺り一帯を覆います。秋が深まった夜には、木から落ちたどんぐりが屋根に当たる「ゴン」という音でピツクリしたかと思うと、枝を離れたどんぐりが地面に落ちるまでの間に、木の枝に付いている葉に当たる「パシッ」「パシッ」という音と、地面

に落ちてから乾いた落ち葉の上を転がる「カサカサカサ」という音が聞こえてきて、もの悲しい気持ちにさせられたものです。

森の中のどんぐりは、このように枯れ葉の上に落ちます。が、その多くは鼠や栗鼠、熊などに食べられて、動物たちが冬を越すための栄養になります。また、虫の卵が産み付けられたどんぐりの中には、孵った幼虫が固い皮に守られながら、栄養豊富な果実(どんぐりは「種」ではなく「果実」なのだそうです)を食べながら、春を待っています。このようにしてどんぐりは多くの、そして様々な命を養っています。一方で、フカフカの布団のような落ち葉の中で雪がすっかり溶けて暖かい日が森の中に差し込む春になると、柔らかい黄緑色の芽を出す小さな芽の幾つかは運良く成長を続け、長い年月をかけて大きくなり、時が来るとたくさんどんぐりを実らせま

した 落ち葉 が、その木にとつて、とても大切なものであるのも不思議です。……もしかししたら、人が「これは必要ない」、「これは間違えている」、「これは失敗だった」と判断して捨てた 出来事 は、神から見れば 落ち葉 のように…… 必要なものかも知れません」と書きました。

そうであるならば、私たちが「もう必要ない」、「持っていたくない」、「間違えた」、「失敗だった」と捨てた 落ち葉・出来事 の上に、神は時が経つと大きな木になり、すべての命を養うことになる ドングリ・良い出来事の種 を落としていたのではないでしょうが……。その多くは、芽を

ローマのクリスマス

前町田教会司祭 田 中 昇

出すことがないかも知れないけれど、それはそれで様々な物事や命を支える 良い出来事 となるのでしょうか。

それでも、いくつかの ドングリ・良い出来事の種 は人間が捨て去ったものの中で芽を出すその時まで、寒く冷たい冬のような日々が終わるのをジツと待っているし、すでに芽を出したものもあるはずだ……様々な音で満ちた街の中で、紅葉を見に行く事もできないまま、十五年前の那須の夜のシンと冷えた空気と静寂、その中で落ち葉の中に落ちるどんぐりを思い出しながら、そのようなことを考えていたのです。

町田教会の皆さんこんにちは。皆さんのお祈りのお陰でローマでの留学生生活も今のところ順調で、無事に二年目のクリスマスもローマで迎えることができそうです。

今回はローマのクリスマスの様子を少しお話ししたいと思います。ローマの街では、待降節に入る頃から通りに面した店はショーウィンドウの飾り付けに凝り始め、大通りの電飾の飾り付けもはじまり、日に日にローマの街全体が華



なら広場や大通りにいる人々の姿もありみられない、静かにクリスマスを迎えようとしているローマの街がありました。多くの店は播き込み時だというのにお休みで、おまけにタクシーやバスもほとんど見当たりません。恐らくこの現象の原因は、普段教会に行っていない人でもクリスマスの際くらいミサに出かけるからなのかもしれません。何よりもイタリア社会にとってクリスマスは、商売抜きにして、全ての人がそれぞれの家庭で日本の盆と正月のように家族や友人たちと一緒に心から喜びをもって過ごせる特別な時だからなのかと思えます。普段は混沌とした雰囲気さえあるローマの街全体が大きな静けさに包まれる中で主の降誕が祝われていくという事実、何か不思議と厳かな

災害支援グループでは十月二十六日と二十七日の二日間福島県南相馬市の被災地を視察した。汚れなきマリア修道会のシスターお二人を含めた八人が参加。町田から約七時間、東北新道のインターを下りた車窓からは除染作業に取り組む作業員の方の姿を見かけた。かつては美しい里山であったこの地で、森林を除染

雰囲気さえ感じました。教会は伝統的に主の降誕直後のミサで、沈黙の静けさが全てを包み、夜が速やかな歩みで半ばに達した時、あなたの全能の御言葉が天の玉座から下った」という聖書の言葉を唱えてきました。讃美の雰囲気にも満ちているパチカンの典礼でも、群衆が一堂に会しているにもかかわらずこうした沈黙の一時をよく体験します。そこから、私たちの讃美が深い沈黙に表される祈りに呼応するものであるように招かれている、クリスマスにおいては、他でもない救い主が与えられた言葉では言い表せない神秘への驚き、深い喜びに呼応するものであるようにと招かれている、そんな気がしました。主の降誕おめでとうございます。東日本大震災被災地を訪ねて災害活動支援グループ 立木 欣吾

信仰年

第二ヴァチカン公会議開催五十周年と「カトリック教会のカテキズム」発布二十周年を記念し、2012年10月11日～2013年11月24日までを「信仰年」とすると宣言。

道・真理・命である師イエス・キリストを深く知る

四つの福音書を学び味わう

主日・祭日 第二朗読 (パウロの手紙など...)

ミサ 第一朗読 (旧約聖書) 第二朗読 (パウロの手紙など...)

最初の教会の信徒の心...

東京教区の皆さんに、東京大司教、パトリック岡田武夫からのメッセージをイラスト化(モセ)

皇教バネジク十六世

優先課題

信仰の深め

信者の成長

福音宣教

多国籍外国人司牧

信條

学ぶ

信仰告白

信條

信仰と愛のあかし

社会教説

学ぶ

克服

神の愛

自分の道

科学技術の発展

自由主義

社会変化

カトリック教会

刷新を求め

1962年～1965年開催

1960年6月5日の聖霊降臨祭を公会議の出発の日とし、準備委員会発足

公会議! 聖霊の促し (ポンテコステ) 新しい聖霊降臨と呼ぶ、ギリシャ語で「五旬祭」

逾越祭から50日目にあたる穀物の収穫を祝う祭の日

聖霊

三位一体の神の交わり

命の創造

神の息

ヘブライ語 (息吹き風)

ギリシャ語 (精神)

ラテン語 (聖霊)

永遠の命

感謝

生涯

信仰の旅(巡礼)

深める

することも、田畑の土をはがすことも拡大すぎて、いつまでにできるのだろうかと考えながら、目的地の南相馬までたどり着いた。宿泊場所は、「カリタスジャパン原町ベース」という施設だ。この施設はカトリック東京ボランティアセンターが、信者の方が以前されていた保育園を借りたものだ。男女別ではあるが雑魚寝。雑魚寝はやはり睡眠不足になった。しかし、震災直後の被災者たちはもっと過酷な状況と不安の中で、過ごさざるを得なかったことを考えると、屋根のある場所ですぐや毛布があることだけでもありがたい。



写真は寺内第一仮設住宅集会所前で、運営責任者の松野さんと

留めていない家屋や、船の残骸がまだ残っていたが、瓦礫の撤去作業はかなり進んでいた。基礎だけが残された家の跡には花が手向けられ、お墓のようにして弔っていた。津波被害にあった海岸沿いの田畑には草が生い茂っていた。茫漠とした平地の向こうにはどこまでも青い海が見える。人どころか動物さえ見当たらない荒涼とした風景からも、人の手が入らないままの地で、時間だけがいたずらに流れていたことを感じた。

仮設住宅にある集会所で、まとめ役になっていての方の話をつかかった。物質的な支援については随分助けられたと感謝の言葉をいただいた。現在は、偏りはあるかもしれないが物資は行き渡りつつあるとのことであった。一方、原発被害に伴う補償金の問題で、一歩境界線を越えると補償金が出ない等の問題があり、人間関係を悪化させていることもわかった。境界線を越えて補償金はもらえない被災者が多いことは十分想像できるが、補償金をもらうため労働意欲をなくし働かない人たちもいる。家や土地があっても放射能の影響で戻れない、家族はバラバラに住まざるを得ない。先の見えない不安と絶望感で自立する気力までも奪ってし

まった今回の地震と原発事故の問題の深さに暗澹たる思いがした。

あの日から一年半が過ぎたが、まだまだ立ちなおれない人達も多い。今は精神的な支援を含め、様々な支援を必要

聖書はおもしろい

運営委員 神谷 富雄



この世での人生が一度しかないことに気付いたとき、仕

とする時期であると思った。キリスト者であるからこそ行えること、それはキリストの愛と慰めが被災者の方の心の傷を癒すことができること、そして東京への帰途についた。

事だけが生きがいと言うのではあまりにもさびしい。そこでそのひとつとして、学生の頃からの願いであった聖書をじっくりと味わうことを楽しみにしたいと思ってきた。そして注解書の助けを借りて二年半がかりでなんとか通読し

ワンポイント聖書

(189)

前島 誠

あなたの目には千年も、過ぎ去れば、きのうのごとく、夜の間の、ひとときのようです。

詩篇90・4

「イエスの教え それを一言で説明するのに適したテキストはどこでしょう？」
職業柄そう聞かれることがある。たいていはこう答える。

「マルコ10章17」に語られている
「どんな中身なのか、まずはご覧いただく。」

イエスが道に出て行くと、一人の男が走り寄ってひざまずき、彼に尋ねた。

「善い先生、永遠の生命を受け継ぐには何をすればよいでしょうか。」

イエスは答えた。「なぜ『善い』と言うのか。神おひとりのほかに善い者はいない。掟は知っているだろう。『殺すな、姦淫するな。盗むな。偽証するな、父母を敬え』」

彼は答えた、「すべて守ってきました」
イエスは彼を愛した。そして言われた。
「お前に欠けた所がある。行け！ まず持っている物を売り払い、貧しい人たちに与えるのだ それから私に従いなさい」
この話には、イエスの切り口がまとめて示されている。

- 1、神おひとりのほかに善い者はいない。
- 2、「奪い取るな」の中身が不明瞭。
- 3、「父母を敬え」の位置が最後尾に来る (マルコ10章17〜22)



た。ほぼ十年前のことである。折りしも第二バチカン公会議五十周年を記念して、今年から一年間「信仰年」とすることが宣言された。町田教会でも自分の信仰を見直すきっかけとなったという方々も多いと聞く。もっとミサに与かりたい。聖書を学びたい。カテキズムを学びたい。もっと奉仕活動に携わりたい。災害支援に積極的に参加したい、などなど。

私はもっともつと聖書を読みたいと思っている。

あの分厚い聖書はおもしろいところもあり、難解で退屈なところも多い。その内容は広く深く、海の水を手ですくうようなもの。しかし、天地創造とあの雄大なロマン、イスラエルの歴史物語に感動しない人はいないだろう。北と南の強国に挟まれた小国イスラエルが主の目に悪とされながら、遅くしたたかに生きる姿に共感もし、わが国の置かれた現状と重なってくる。

神と人との間に立つ預言者の悲痛な叫びに心が痛む。また詩人たちは、耐えがたい苦しみを嘆き訴え、裁きの後は神を讚美し喜び踊る。

キリスト者にとって聖書のおもしろさはその歴史の中に神が働きかけ、背く民を忍耐強く救済しようという大きな

計画の物語だと知っているからではないだろうか。

また、聖書の中の出来事は、それがどのような時代背景で起こったことなのか。聖書の記者がどのような視点で記したもののなのか。またイエスがどのような状況のもとで語った言葉なのか、それを知ることによって、主であり人であるイエスが身近に迫ってくる。さらにイエスやパウロが語ることは旧約聖書の引用が多い。そこで新約と旧約との間を行ったり来たり。このように聖書の中に深く入り込んでいくと、おぼろげに福音が明かされてくる。聖書のおもしろさはこのようなどころにもあるようだ。一方、聖書は聖霊の助けがなければ分からないことも論される。

そして真摯に聖書に聴こうとするとき、神は時期をみて応えようとしてくださる。そのとき私は祈る。復活の主に出会うことを願って。合掌
「ああ、神の言と知恵と知識のなんと深いことか。だが、神の定めを究め尽くし、神の道を理解し尽くせよう。」
(ローマ信徒への手紙11の33)



クリスマスと年始のミサ

★クリスマスのミサ	12月24日(月) <table border="0" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr><td style="font-size: 2em;">{</td><td>17:00</td></tr> <tr><td></td><td>19:30</td></tr> <tr><td></td><td>22:00</td></tr> </table>	{	17:00		19:30		22:00	
{	17:00							
	19:30							
	22:00							
イブ(24日)のミサ前にミニコンサートを行います								
	12月25日(火)	11:00						

★年始のミサ	1月1日(火)	<table border="0" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr><td style="font-size: 2em;">{</td><td>00:00</td></tr> <tr><td></td><td>11:00</td></tr> </table>	{	00:00		11:00
{	00:00					
	11:00					

犠牲献金

中高生会

10月	10,088円
	(ベロニカ苑へ)
11月	15,970円
	(ベロニカ苑へ)

掲載写真について

広報では、典礼上の諸行事(洗礼、初聖体等)を始め、各種催しの写真をご提供いただき紙面で活用するとともに、CD化したものを保存しています。多くの素晴らしいショットがありますので、ご利用(個人的用途も含め)を希望される方はいつでも広報担当者までお申し出ください。

「雷の子」次号編集会議予定
2月3日(日)09時30分
於会議室

~~~~~  
**信 者 動 静**  
~~~~~

2012年10~11月

(個人情報のため、削除しています)